

共同研究の目的と概要

1. 共同研究の背景と目的

当館における建築家・中村順平資料の収集・研究・展示の発端は、平成18年度に檜の会（代表：松本陽一氏）より寄贈されたことによる。これを受けて平成19年、当館では特集展示「生誕120年 大阪が生んだ偉才 建築家・中村順平」（5月30日～7月9日）を開催した。その後、青木榮氏、歌寄春子氏、大西春雄氏、木村弓子氏、松本陽一氏、吉原正氏ら、中村順平の教え子や関係者より個別に資料の寄贈を受け、まとまったコレクションが形成されてきた。当館ではさらに、平成24年に特集展示「中村順平 建築芸術の探究」（4月4日～5月28日）、同27年に特集展示「中村順平と建築芸術教育」（6月3日～8月3日）を開催した。

中村順平は日本人で初めてパリの美術学校エコール・デ・ボザール建築セクションに留学し、フランス政府公認建築士となったことで知られる。戦前には少なくとも21隻におよぶ豪華客船の船内装飾設計を手がけ、日本にボザール流の芸術面を重視した建築を普及させることに尽力したことなどから、日本近代建築史上重要な建築家の一人として扱われてきた。しかし、当館に寄贈された個々の資料は、いままで知られていなかった作品に関するスケッチや図面、中村の自筆ノート、原稿などが含まれており、多くの研究課題があることが改めて浮き彫りとなった。

こうした背景から、本研究は「中村順平のスケッチブックと図面類の画題・作画時期解明に関する研究」と題し、不明のものが多かった「スケッチブック」の画題・作画時期の解明をすること、また当館所蔵図面類のうち多くの割合を占める中村順平が主任教授を務めた横浜高等工業学校（現・横浜国立大学都市科学部）建築学科での教え子たちの製図課題提出作品の解明を目的とする。

2. 共同研究者

活動期間である平成28年4月～平成29年3月まで、下記の共同研究者の参画を得た。

海老名熱実氏

林 要次氏

3. 活動の概要

中村順平「スケッチブック」1～4（建953）の調査研究では、船内装飾を海老名熱実氏が、キリスト教会に関する建築を酒井一光が担当した。12月に大阪歴史博物館において資料調査と検討を行った。

また、横浜高等工業学校建築学科での中村が出題した製図課題については、これまでほとんど詳しい調査が行われていなかった『中村順平問題表「鈴木秀一」』（建945）を対象に、林要次氏が担当した。11月に大阪歴史博物館において資料調査と検討を行った。

以上の成果を、本報告書で報告する。ただし、今後も未解明の資料が多数あることから、平成29・30年度にも「中村順平の設計活動と建築教育に関する研究」と題して継続的な共同研究を進めて行く予定である。

（酒井一光）